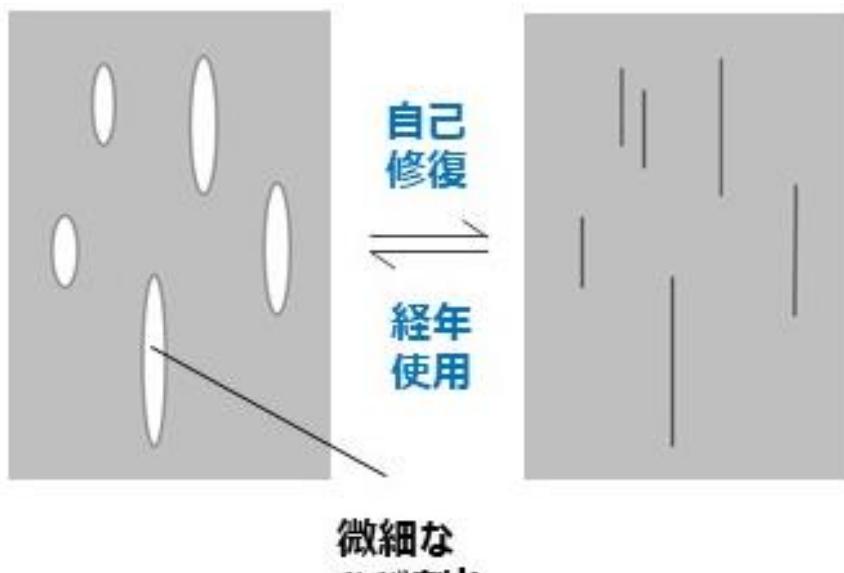


PRESS RELEASE

2026年1月27日

理化学研究所と住友理工、共同研究成果を発表 ～自己修復性ゴムにより耐久性向上へ、新たな材料可能性を確認～

住友理工株式会社（本社：名古屋市中村区、代表取締役 執行役員社長：清水和志）と、国立研究開発法人 理化学研究所（所在地：埼玉県和光市、理事長：五神真、以下「理研」）は、共同研究により「自己修復性を有するゴム」が、従来材料と比べて耐久性向上に寄与する可能性を確認しましたので、お知らせいたします。



自己修復のイメージ

■共同研究の背景

理研と当社は、製品のさらなる長寿命化を目的に、2024年より共同研究を開始しています。ゴム材料は一般的に、使用に伴い微細なひび割れが生じますが、理研が保有する材料設計技術を活用することで、損傷後に自己修復する、または簡単な処理で修復される特性の実現を目指しています。

■共同研究の成果と今後の展開

今回、当社で使用している既存ゴム（以下「従来材」）と共同設計した自己修復性ゴム（以下「サンプル材」）の耐久性比較試験を実施しました。試験の結果、サンプル材で耐久性向上の傾向が確認され、自己修復性が材料の長寿命化に寄与する可能性を確認しました。自己修復性ゴムが実用化されれば、製品寿命の延伸、廃棄物の削減、メンテナンス負荷の低減など、環境・コストの両面での効果が期待されます。今後は、耐久性の向上要因を詳細に解析するとともに、適用分野や仕様最適化について理研と協働のもと検討していきます。

当社グループは、経営ビジョン「2029年 住友理工グループ Vision」で掲げている「自然と都市と人の空間が繋がる グリーンで快適な社会」の実現に向けて、社内外との共創を推進しています。今後も会社の枠を超えた連携のもと、技術革新に対応した製品の開発・供給をさらに加速させるとともに、持続可能な社会の実現に向けて貢献してまいります。

<国立研究開発法人 理化学研究所 環境資源科学研究中心 公式サイト>

<https://csrs.riken.jp/jp/>

以上

―― 住友理工について――

住友理工は1929年に創業し、名古屋市中村区に本社を置くモノづくり企業です。2014年に東海ゴム工業から社名を変更しました。自動車（モビリティ）分野では、振動を制御する世界トップシェア（当社推定）の防振ゴムのほか、ゴム・樹脂ホースや、ウレタン製の制遮音品・内装品を製造。自動車部品の開発で培った技術を生かし、インフラ・住環境、エレクトロニクス、ヘルスケアの各分野でも事業を展開しています。世界20ヶ国以上に広がるグローバルネットワークを活用して、“Global Excellent Manufacturing Company”を目指しています。

リリースに関するお問い合わせ先
住友理工株式会社

広報IR部／〒450-6316 名古屋市中村区名駅一丁目1番1号 JPタワー名古屋

tel 052-571-0259 e-mail product.info@jp.sumitomoriko.com <https://www.sumitomoriko.co.jp/>